

# 京都市立西京高等学校を訪問しました

令和6年11月22日（金）

11月22日（金）に、国際探究科設置に係る学校視察の一環として、京都市立唯一の中高一貫校である京都市立西京高等学校・附属中学校を訪問しました。

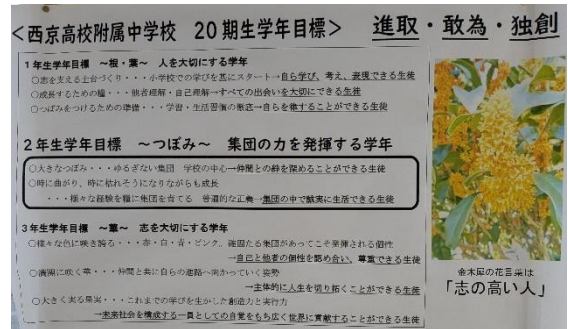
訪問したのは、川手校長先生、金澤教頭先生、国際探究科主任の大谷先生、国際バカロレア主任の丹羽先生の4名です。



訪問後すぐに岩佐峰之校長先生、宮部剛教頭先生（中学）、飯村中教頭先生（高校）から学校の様子について説明をいただきました。

まず岩佐校長先生からは、附属中学校を併設する場合、一番大切なのは高校改革であるという説明をいただきました。附属中学校で素晴らしい教育を行っても、接続先の高校が変わっていなければ、受験生にとって魅力的な学校に感じられないと言われました。これはまさに、現在本校が継続的に取り組んでいる高校の魅力作りの大切さを再認識できる言葉でした。

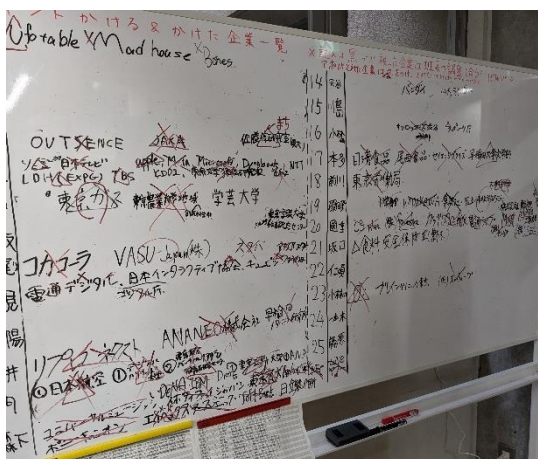
また、進路実績として京都大学に40名以上の生徒が合格しているが、普段から共通テスト後1ヶ月のラストスパートの大切さを意識させる指導を行っていると言われました。これは「進取・敢為・独創」という



校是を校長先生自らが生徒に伝え続けることによって、自然と生徒に身についた力が成せるものでした。「勉強できるのは当たり前、文武両道も当たり前、協働作業ができる環境が生徒を変える。」という説明からも、生徒の力を信じている姿が垣間見られました。

その後、高校と中学校の総合の時間を見学しました。高校では、「かにに利き足はあるのか？」や「運動後の心拍数を効果的に落とす方法は何か？」など、とても興味深いテーマについてグルー

プワークで取り組んでいました。また、中学校では2週間後に行われる東京FW（フィールドワーク）で訪問する企業や団体に提案するテーマを検討していました。あるグループでは、「オーバーツーリズムを軽減するための方策」について、東京の鉄道会社に提案する手だてを考えたり、「スポーツ視聴におけるさまざまな目線からの動画配信の方策」を日本バスケットボール協会やスポーツ配信会社に提案する計画を練っていたりしました。どちらも大変興味深いテーマで、企業側としても提案に対して真剣に対応することになると感じました。



西京高等学校のモットーは、「おもしろ、おかしく」だそうです。これは本校の目標である、「ワクワク・ドキドキ」できる学校作りに通じるものがありました。今後は説明いただいたことを参考にし、新学科や中高一貫校の取組に役立てていきたいと思えます。

これからも本校は、先進的な学校から積極的に情報を収集し、次年度の取組に役立ててまいります。ご期待ください。

教頭 金澤 学